

Ⅲ 耕地の利用状況

1 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（平成29年）

(1) 田の農作物作付（栽培）延べ面積は224万7,000haで、前年並みとなった（表14）。

田の耕地利用率は92.9%で、前年に比べて0.1ポイント上昇した（表14）。

(2) 畑の農作物作付（栽培）延べ面積は182万8,000haで、前年に比べ1万7,000ha（1%）減少した（表14）。

これは、麦類（子実用）等の作付面積が減少したためである。

畑の耕地利用率は90.2%で、前年に比べて0.3ポイント低下した（表14）。

(3) この結果、田畑計の農作物作付（栽培）延べ面積は407万4,000haで、前年に比べ2万8,000ha（1%）減少した（表14）。

これは、水稻（子実用）等の作付面積が減少したためである。

田畑計の耕地利用率は91.7%で、前年並みとなった（表14）。

表14 平成29年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

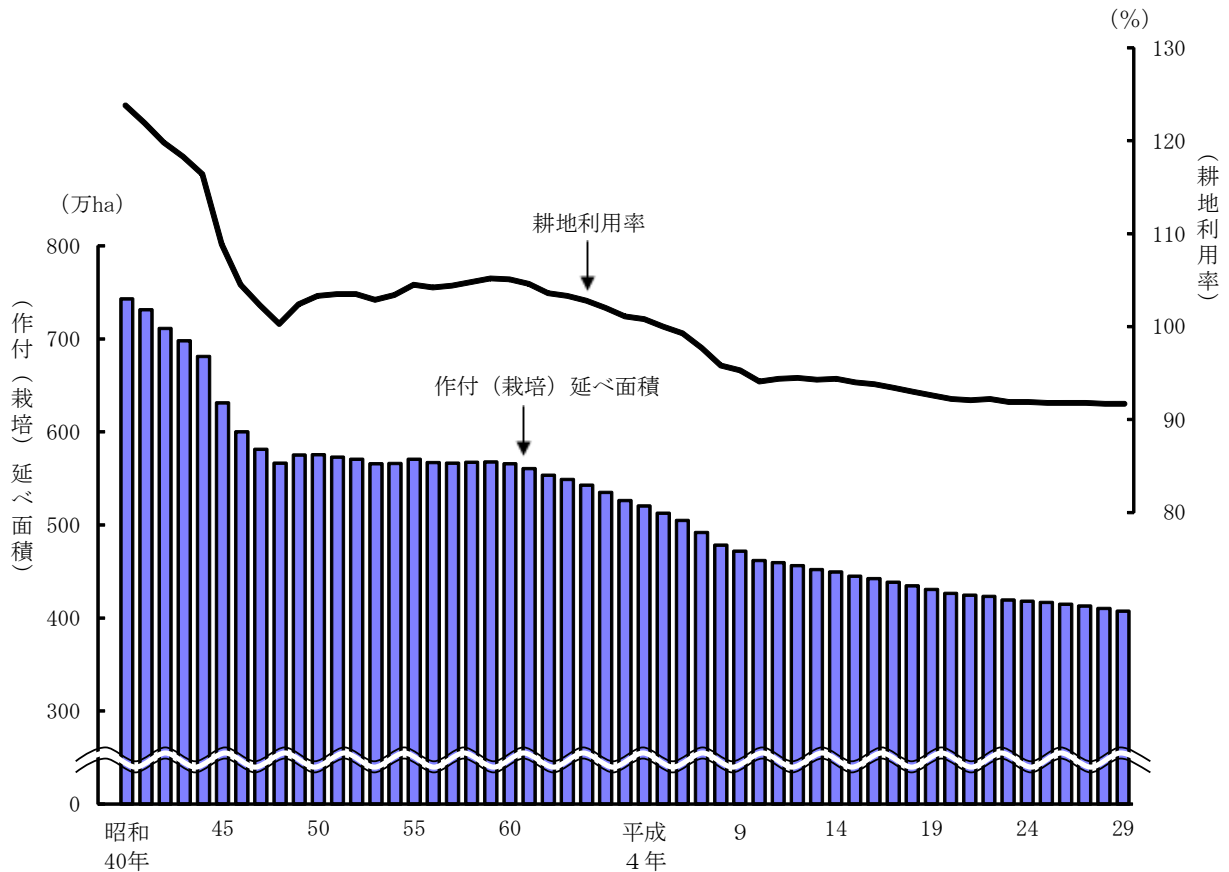
区 分	田 畑 計				田			畑		
	作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付（栽培） 延べ面積	前年との比較		作付（栽培） 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付（栽培）延べ面積	4,074,000	△ 28,000	99	91.7	2,247,000	△ 10,000	100	1,828,000	△ 17,000	99
水 稻（子実用）	1,465,000	△ 13,000	99	33.0	…	nc	nc	…	nc	nc
麦 類（子実用）	273,700	△ 2,200	99	6.2	171,600	△ 1,600	99	102,100	△ 500	100
大豆（乾燥子実）	150,200	200	100	3.4	120,800	500	100	29,400	△ 400	99
そば（乾燥子実）	62,900	2,300	104	1.4	38,100	600	102	24,800	1,700	107
なたね（子実用）	1,980	0	100	0.0	…	nc	nc	…	nc	nc
そ の 他 作 物	2,120,000	△ 15,000	99	47.7	450,300	3,000	101	1,670,000	△ 18,000	99
耕 地 面 積	4,444,000	△ 27,000	99	nc	2,418,000	△ 14,000	99	2,026,000	△ 13,000	99
耕 地 利 用 率	91.7%	0.0ポイント	…	nc	92.9%	0.1ポイント	…	90.2%	△0.3ポイント	…

注：耕地利用率とは、耕地面積を「100」とした作付（栽培）延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率 (\%)} = \frac{\text{作付（栽培）延べ面積}}{\text{耕地面積（7月15日現在）}} \times 100$$

- (4) 作付（栽培）延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少に加え昭和45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により、田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、昭和49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移してきた。昭和60年以降は麦類に加え豆類等も減少し、平成10年からは米の需給調整対策の推進等から麦類、豆類等の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している（図12）。
- (5) 耕地利用率の動向をみると、昭和40年には123.8%であったが、その後も低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。その後は平成11年に、前年に比べ0.3ポイント上昇したものの、ほぼ低下傾向で推移し、平成23年以降はほぼ横ばいで推移している（図12）。

図12 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移



2 夏期における田本地の利用状況

(1) 平成29年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は160万ha（青刈り面積を含む。）で、前年に比べ1万1,000ha（1%）減少し、水稲以外の作物のみの作付田は41万1,800haで、4,100ha（1%）減少した。

また、夏期全期不作付地は27万3,100haで、3,400ha（1%）増加した。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は70.1%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は18.0%、夏期全期不作付地の割合は12.0%となった（表15）。

表15 平成29年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,284,000	△ 12,000	99	100.0
水 稲 作 付 田	1,600,000	△ 11,000	99	70.1
水稲以外の作物のみの作付田	411,800	△ 4,100	99	18.0
夏 期 全 期 不 作 付 地	273,100	3,400	101	12.0

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、昭和45年に米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、夏期全期不作付地については増加傾向で推移している（図13）。

図13 夏期における田本地の利用状況の推移

